

## 第1学年学級活動指導案

日時 平成28年11月16日(水) 14:00～14:50

場所 南舎1階 1年A組教室

授業者 稲葉 恵

### 1 題材「掃除の取組の振り返りから」について

体育大会では、活動に積極的になれない生徒に思いを聞いたり願いを伝えたりと、多くの生徒が関わることができた。各々の思いを学級で共有することで「全員で活動する喜び」や「思いを伝え合うことの大切さ」を感じることができた。その後福祉・夢コンサートでは「恥ずかしい」「自信がない」という弱い気持ちを越えさせてくれた仲間存在に気づき、感謝の思いを込めて全員で合唱に向かうことができた。その振り返りから、自分と向き合うために学級として「掃除の取組」を設定した。

本時は、取組に向かう仲間の思いに触れ、自分を振り返ることを通して、仲間に背中を押されて初めて行動していた自分や、人任せにしていた自分、どこかで手を抜いていた自分に気づき、そんな自分を変えていくために、日常生活の中でやりきりたい活動を決め、具体的に行動できるようにすることをねらいとする。各々の決意が、今後の行動・事実づくりの足がかりとなり、その積み重ねが、学級の仲間からひとりだちしていく自信になるようにしていきたい。

### 2 生徒の実態

授業や係活動に意欲的に取り組み、努力する仲間の姿から、「自分も頑張ろう」と思いをもって行動できる生徒が多くいる。しかし、そんな思いをもっていても、大縄練習や掃除など、辛いことや面倒なことから逃げてしまう生徒がいる。そういった弱い心に寄り添って言葉をかけ、一緒に活動しようとするリーダーの姿は増えつつある。

7月に行った意識調査では、以下のことが明らかになった。

自分の弱い気持ちはどんなものか尋ねると、

- ・「面倒くさい」2人
- ・「少しくらいいいや」7人
- ・「他の人がやってくれるから自分はいいや」7人
- ・「自分は関係ない」1人
- ・「反応が気になって勇気が出ない」2人であった。

行事や日々の学習、係活動を通して、自分のよさや弱さをより真摯に見つめさせ、自分を成長させようという意欲を高めていきたい。

### 3 研究内容と本時との関連

#### (1) 研究内容 について

本時の終末に決める具体目標が、言葉だけのもので終わらないためには、「掃除の中で姿として表れる弱い気持ちは、日常生活の中の様々な場所で同じように自分の中にある。」と気づくこと、そして「自分の弱い気持ちは、こんな気持ちだ。」と分かることが不可欠である。また、目標を自分一人の思い込みにせず、多様な見方の中で自分を知り、自己決定していくために、「その気持ちよく分かる。」「みんなにもある気持ちなんだ。」と共感や安心を感じたり、納得や新たな発見をしたりできるようにする必要がある。次の様に双方向の言語活動を仕組み、仲間の発言と自分を比較したり重ねたりすることでねらいに迫りたい。

自分の立場を明確にするために、掃除での自分の姿と、その姿の奥にはどんな思いがあるのかを振り返って話し合う。

仲間の作文を聞き、同じように考えたこと・自分

と比べてハッとしたこと、自分を見つめて感じたことを話し合う。また、疑問に思ったことや知りたいことを問いかける。それに対して自分なりの答えを返したり、発言に対して思ったことを話す。

掃除に表れる自分の弱さは、日常の中でのどんな場面で当てはまるのかを話し合う。

#### (2) 研究内容 について

本時のプリントには、自分が越えるべき気持ちと、それを越えるための行動目標、また、話し合いで自分をハッとさせてくれた人と言葉を記入し、仲間の前で発表する。時間内に全員は発表できないが、帰りの会を使って班の仲間の前で決意を話し、班員にコメントをもらう。「仲間が自分の決心を知ってくれる。」「応援してくれる。」という思いをもたせるとともに、今後の個別の姿の見届けと、そこにある思いの価値付けを丁寧にしていくことで、自己肯定感の向上を図る。

### 4 人権教育の観点から

・仲間の発言と自分を重ねたり比べたりして聞き、納得できる考えや思いを取り込んで、自分の姿や思いを見つめることができるようにする。(自己啓発力)

・弱さを克服するための目標を具体的で評価可能なものにすることで、行動に移せるようにする。(行動力)

・仲間の前で決意を話し、「仲間が自分の決心を知ってくれる。」「応援してくれる。」という思いをもたせる。各々が決めた目標に込められた願いや、仲間の心を動かした発言を価値付ける。(自己肯定感)

6 本時の目標

掃除の取組に向かう仲間の「自分を変えていきたい」という強い願いを知ることで、自分の心の中にある妥協する気持ちや、率先して必死になれない弱さに気づき、自分の弱い気持ちに打ち克つための具体的な目標を立てることができる。

7 本時の展開

段階	学習活動	留意点 双方向 人権教育の視点
つかむ	<p>1 掃除の取組における自分の姿とその思いを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「みんな頑張っているから自分も頑張らない」という気持ちで隅々まで丁寧にやっている。</li> <li>さんがいつも声を掛けてくれるので、やらないかなという気持ちになる。</li> <li>最初の時間に間に合わないときがある。それは、話に夢中になっていて気付かなかったから。</li> <li>黙ってやっていたらいいだろうと思って、あまりきれいにすることはできていない。</li> </ul> <p>2 課題を設定する。</p> <p>ひとりでも頑張れる自分を目指して、(弱さを乗り越えるための具体的な目標を考えよう。)</p>	<p>・掃除の取組表を見せる。</p> <p>「それはどんな気持ちで頑張れている(頑張れなかった)のですか？」と司会の学級委員に問わせ、姿の奥にある思いに着目できるようにする。</p> <p>・掃除を通して、今の自分に満足できているのか、仲間が隣にいないでも、本当に自分ひとりでも頑張れているのかを問いかけて、課題意識をもてるようにする。</p>
深める	<p>3 仲間の作文を聞き、取組に向かう思いを知る。</p> <p>・掃除だけは、誰にも負けにくいくらい頑張っている自信がある。頑張ることができる理由は、体育大会のときに、人に言われるまでできないという弱さを感じて、そんな自分を変えていきたいと思ったから。毎日誰よりも早く掃除を始めて、ごみが一つもないようにしていることが、自分にとって自信になった。</p> <p>4 仲間の思いを聞き、同じように考えたこと、自分と比べてハッとしたこと、自分を見つめて感じたことを交流する。</p> <p>「私も、福祉夢コンサートでの、人任せにしないという目標を掃除でもって頑張っている。」</p> <p>「僕はどうしても、面倒な気持ちに勝てないから、さんはすごいな。」</p> <p>「さんには、面倒な気持ちはないんですか。」</p> <p>「僕はそんな風に掃除に向かってなくて、ただ掃除をやっているだけだった。さんやさんのように、自分も目標をもって取り組みたい。」</p> <p>5 掃除以外にも、同じような弱い気持ちをどんな場面で感じているか交流する。</p> <p>「授業中に、挙手しなきゃとは思って、恥ずかしいとか自信がないという気持ちにいつも負けてしまう。」</p> <p>「自分が挙手しなくても、誰かがやってくれると思っている。」</p> <p>「掃除と一緒に、宿題でもまあいいだろうと手を抜いてしまう。」</p> <p>「さんが言ったのと同じように、注意したら嫌われるんじゃないかという気持ちがあって、勇気を出せない。」</p> <p>「こういう弱さを、仲間に言われなくても自分で越えることができたなら、自信をもって2年生になれると思う。」</p>	<p>作文を聞いた後、「さんと同じようなことを感じた人はどれくらいいますか。」「さんと同じようなことを感じている人はいませんか。」「今話してくれた人の気持ちも聞いて、ハッとしたことや自分と比べて感じたことを話してください。」と、司会に問いかけさせる。</p> <p>仲間の作文や発言に対して、「それはどういう気持ちでしているのですか。」「こういう気持ちはないのですか。」また、頑張っていると思う仲間に対して、「いつも本当に頑張っているけど、どんな気持ちでやっているのですか。」など、普段から質問ができるようにする。</p> <p>言われたことや質問に対して答え、答えてくれたことに対してはもう一言返すことを普段から指導する。</p> <p>仲間の発言から納得できる考えや思いを取り込んで話す姿を価値付け、自分の姿や思いを見つめるよう促す。(自己啓発力)</p> <p>・弱さ(気持ちに負けてしまう)という言葉が出てきたけど、それって掃除のことだけだろうか。」「こんな気持ちを他の場面でも感じたことはないかな。」と問いかける。</p> <p>・この交流の中で、自分の中にある弱い気持ちがどんなものか明らかになるように仲間の話を聞き、自分の思いを話せるよう意識させる。</p> <p>・仲間に共感することで、自分にとっても弱さがいかに行動を決めているかに気付かせる。</p>
まとめる	<p>6 自分の越えるべき気持ちをはっきりさせてプリントに書き、発表する。</p> <p>自分がやっぱり、これくらいいいかという気持ちに負けてしまって、どこか手を抜いてしまうことが、掃除でも、家庭学習や挙手でもあった。さんやさんの思いを聞いて、自分に負けずに頑張る仲間から、自分は置いていかれている感じがした。だから私は、楽をしたい気持ちに負けずに自分になるために、たった15分間の掃除中、一言もしゃべらないで、自分と勝負する!</p> <p>7 教師の話と価値付け</p>	<p>できたのか・できていないのかを、誰から見ても評価できる具体的な目標になるように、机間指導し助言する。(行動力)</p> <p>・誰のどの発言によりそういう思いになれたのかを合わせて話せるように指導する。</p> <p>仲間の前で決意を話し、「仲間が自分の決意を知ってくれる。」「応援してくれる。」という思いをもたせる。各々が決めた目標に込められた願いや、仲間の心を動かした発言を価値付ける。(自己肯定感)</p>

5. 題材を含む指導構想図

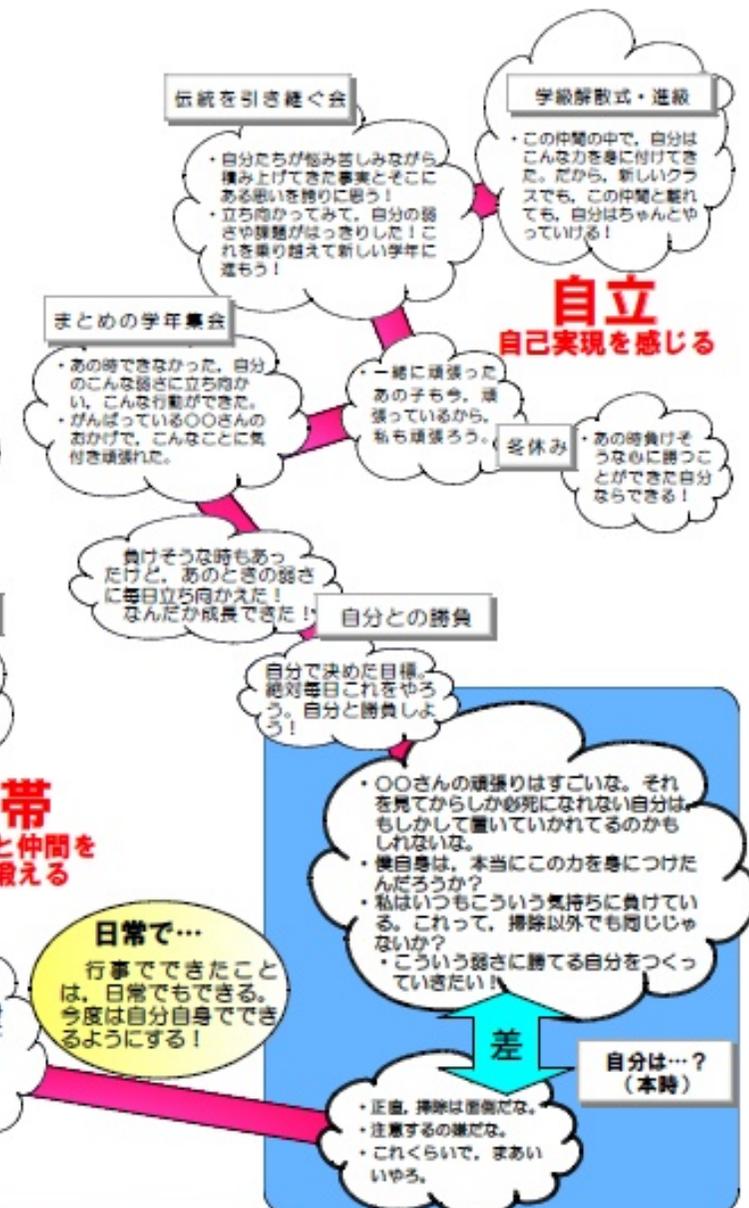
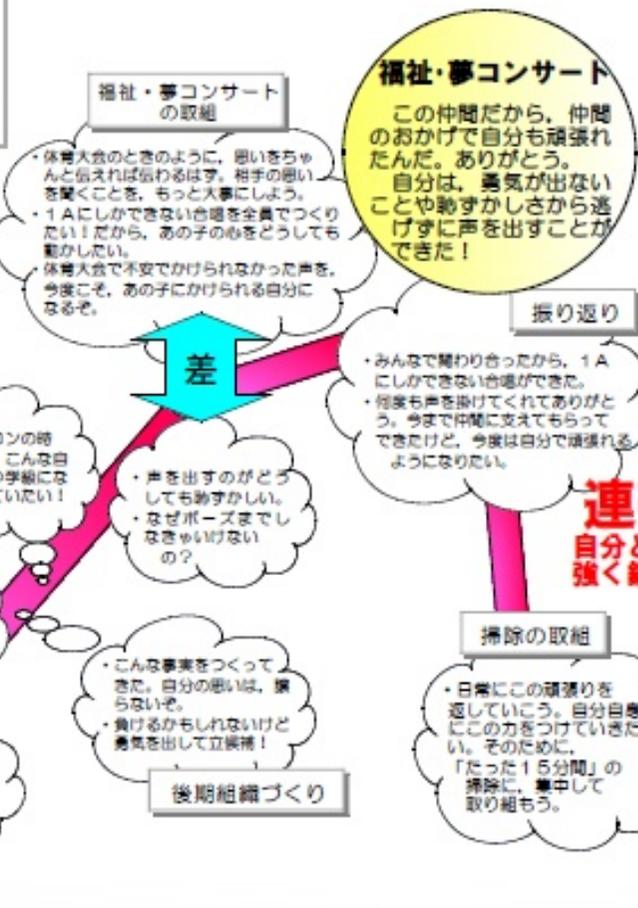
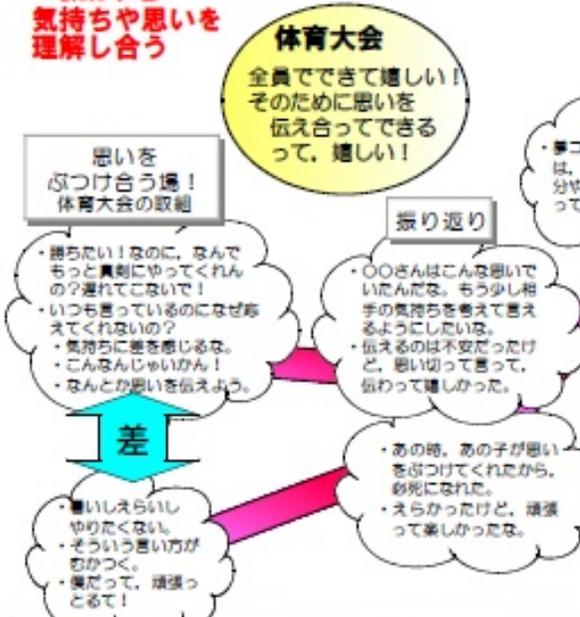
1Aのゴールに向けた構想図  
(体育大会～学級解散式)

**学級目標**

**29人30脚**  
考えて動く自分・信頼し合える仲間

この学級目標のもと、仲間同士思いを伝え合い、関わりながら全員で活動することや、自分の「これくらいいいや」という気持ちに負けず、周りのことや先のことを考えて行動することを目指している。

**協力**  
気持ちや思いを理解し合う



集団としての一体感や所属感を感じる      思いを伝え合うよさを感じる      個の視点で、越えたい弱さを明確にする      自分を支えてくれた仲間存在に感謝する      自分自身は本当に力をつけているのか、見つめ直す      弱い気持ちと勝負する事実を積み重ねる      事実を積み重ねた自分に、自信と誇りがもてる